

小・中学校国語科における学習者用デジタル教科書の 年間を通じた活用場面の提案

Suggestion of using digital textbook for learners in the Japanese language course at an elementary school and a junior high-school.

岸田 正幸
KISHIDA Masayuki
(和歌山信愛大学)

西尾 達也
NISHIO Tatsuya
(紀美野町立下神野小学校)

貝尻 早希
KAIJIRI Saki
(和歌山県立桐蔭中学校)

豊田 充崇
TOYODA Michitaka
(和歌山大学教職大学院)

受理日 令和5年6月2日

抄録：小・中学校国語科における学習者用デジタル教科書の年間の有効活用場면을提案するために、17～19回に及ぶ小・中学校への訪問調査を実施した。その結果、「話すこと・聞くこと」「読むこと」での有効性が数多く抽出され、具体的な効果を捉えることができた。一方で、「書くこと」については少数に留まった。また、動画や音声等の収録コンテンツは、デジタル教科書の得意分野として認められ、ワーク等の機能は今後さらに収録数が増えることで「知識及び技能」への学習効果が期待できた。

キーワード：国語科、学習者用デジタル教科書、タブレット一人一台体制、学習効果、有効活用場面

1. はじめに

令和元年度から開始された「GIGA スクール構想」によって、文部科学省主導のもとでタブレット端末一人一台体制の学習環境が構築されてきた。こうしたハードウェア環境の整備後には、同省による「学習者用デジタル教科書普及促進事業」（令和3年度～）によって、コンテンツの充実が図られた。同時に、『学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン』（文部科学省、2021年3月改訂）が出され、それらの効果的な活用のための各種機能や好事例等が示された。本ガイドラインでは、「学習者用デジタル教科書の定義」がなされており、学習者用デジタル教科書とは、「紙の教科書と同一の内容がデジタル化された教材」を指し、通常、教科書の学びを支援するためにバック化されたコンテンツは、学習者デジタル教科書ではなく、「学校教育法第34条第4項に規定する教材（補助教材）」であるとし、これを「学習者用デジタル教材」と呼んでいる。ただし、学習者用デジタル教科書の理解を助けるためのデジタル教材という意味では、両者は不可分な関係にあることから、本稿では包括的概念として、教科書部分とバック化されたコンテンツを合わせて、以下「デジタル教科書」として扱うこととする。

令和4年度には、全国全ての小・中学校に、外国語

科（英語）で使用できる学習者用デジタル教科書を提供するとともに、希望する学校にあっては、もう1教科を追加で導入することができた。結果、全国で約8割の学校が追加希望を出し、和歌山県においても83%の学校に、英語以外の学習者用デジタル教科書が導入された。

但し、こういった急速な普及方策の推進に比して、学校教育現場の反応は相対的に鈍いといわざるをえない。これは、従来の教科書がなくなるわけではなく、学習者用デジタル教科書を使用しなくても教科指導はできるといった理由が最も大きいといえる。そもそも、学習者用デジタル教科書の使用のためには、タブレット端末一人一台体制での授業が前提となるが、そういった体制が各教科で日常化したと言い切れる状況にはないとも考えられる。

しかしながら、一方では、森山ら（2021）の調査によって、学習者用デジタル教科書に対する教員からの期待値が総じて高いことも判明している。つまり、学習者用デジタル教科書が持つ豊富な機能への期待はあるが、指導体制を大きく変化させる労力の軽減や従来の紙媒体の教科書との併用をどう図るかについての懸念を払拭する必要性など乗り越えるべきハードルは高いといえる。

そこで、年間を通じた授業展開の中で、国語科における学習者用デジタル教科書の有効活用場면을提案す

ることで、日常的な授業における活用へのハードルを下げるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、小学校と中学校の国語科における単元教材のねらいを達成するための学習支援コンテンツの1つとして、学習者用デジタル教科書がどのように活用できるのか、年間の単元をもとに提案することを目的とする。

3. 研究方法

3.1. 研究協力者

小学校の協力者は、共著者の1人であり、和歌山県海草郡紀美野町の教諭である。紀美野町はGIGAスクール構想以前よりタブレット端末一人一台体制の導入をおこなっており、教育の情報化の進展した地域であった。また、複式学級における間接指導時での「学習者用デジタル教科書」の活用についての授業研究を推進してきた教員もいることから、紀美野町立下神野小学校（以下、下神野小）を共同研究の対象校と決めた。

中学校の協力者は、共著者のもう1人であり、1年生と2年生の国語科担当の教諭で、県立中学校の教諭である。和歌山県の中学校16校には、国語科の学習者用デジタル教科書導入されているが、年間を通じた効果検証を想定しているため、学校訪問の地理的条件及び既にICTを活用した授業に慣れた国語科教員がいることといった条件から、和歌山県立桐蔭中学校（以下、桐蔭中）を共同研究の対象校と決めた。

3.2. 検証方法

本研究では、デジタル教科書を含めた学習支援コンテンツが、単元教材のねらいを達成するために、どのような組み合わせにより使われているかを長期に渡って探る必要がある。そこで、2人の共著者には下記のように依頼した。

- ①学習者用デジタル教科書の有効活用に関する研究であること。
- ②但し、授業参観を意識して通常の授業計画のペースを崩さないようにすること。
- ③意識的にデジタル教科書を使う必要がないこと。
- ④年間を通じてデジタル教科書をはじめとした学習支援コンテンツ全般の活用記録をつけること。

上記を伝えた上で、筆頭著者による国語科授業の参観時の授業記録と、上記④の授業者による記録により、当該単元教材のねらいとその授業で用いられた学習支援コンテンツについて分析した。

3.3. 期間及び検証校の概要

下記の表1に示すとおり、ほぼ1年間を通して基本的に週1回のペース（行事等の関係で調整が難しい週は除く）で筆頭著者が国語科の授業を参観した。

表1 検証期間・回数・検証校の状況

学校名	和歌山県立桐蔭中学校	紀美野町立下神野小学校
期間	令和4年4月26日～令和5年2月6日	令和4年4月25日～同5年1月17日
訪問回数	19回（毎回各学年1学級分を参観）	17回
対象学年・人数	中学校1・2年生（各学年80名）	小学校6年生（10名）
使用教科書	光村図書の教科書及び学習者用デジタル教科書を併用	光村図書の教科書及び学習者用デジタル教科書を併用
使用端末	Chromebook（一人一台体制）	iPad（一人一台体制）
使用アプリの例	まなビューア ¹⁾	ロイロノート

小学校では、10名（男子7名、女子3名）が黒板及び大型電子黒板を囲むように馬蹄型に机を並べ、クラス全員による討議や共有が行いやすい環境にしている。児童らがデジタル教科書を活用するに当たっての阻害要因となるべき要素はなく、むしろタブレット端末の日常的な利用により、いわゆる「文具化」が達成されており、教育支援アプリ（ロイロノート）の使用についても操作に慣れた状況で検証期間が開始された。

中学校では、使用端末は基本的に教室保管であるが、必要に応じて持ち帰ることも可能である。生徒は割り当てられた生徒用アカウントを利用し、家庭にあるPCやスマートフォンからもログインできる。教室は黒板ではなくホワイトボードを設置しており、据え付けのプロジェクターで教室前方中央のスライド式のスクリーンに指導者の画面を投影できる。また、ホワイトボードに直接投影し、その上からマーカーで書き込みすることもできる。

4. 年間を通じた活用

4.1. 小学校における活用

小学校6年生の国語科の教科書で1年間に扱う教材は、配当時間数の軽重合わせて45教材。1つの教材で複数の指導事項を併せ持つものも多いが、そのうち、明らかに2つのねらいをもった3教材をダブルカウントし、総教材数は48とした。もちろん、これら48の教材の中には、「知識及び技能」に関する事項で、配当

時間を1時間に想定したものもあり、学習支援コンテンツの複合的な活用は想定しにくい単元も多く含まれている。このうち、デジタル教科書を活用したのは16回。その他のICTを活用した回数が15回。さらに、1つの教材で、その両方を併用した回数は7回であった。表2は、小学校国語科の学習指導要領の示された指導事項ごとに分けて、活用回数を一覧にしたものである(巻末資料1を参照)。

表2 総教材数とデジタル教科書及びその他のICTの活用回数(小6)

	知識・技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉	情報	言語文化	話す・聞く	書く	読む
教材総数	19	2	8	5	5	9
デジタル教科書活用	4	0	5	1	0	6
他のICT活用	2	0	2	2	3	6
デジタルICT併用	1	0	1	0	0	5
黒板・ワーク等	13	2	2	2	2	2

4.2. 中学校における活用

中学1年生の国語科の教科書で1年間に扱う教材は、配当時間数の軽重合わせて52教材(最低1時間配当を1教材と数える)。1つの教材で複数の指導事項を併せもつものが多く、主たるねらいをどこに定めるかの判断は難しいが、概ね、例えば「読むこと」教材で、「知識及び技能」のねらいも併記されているものについては、主たるねらいが「読むこと」にあると判断した。また、「読むこと」教材でありながら、それを踏まえて「書くこと」指導につなげている教材については、ダブルカウントするといった基準を設けて指導事項に分けてみると、総教材数が64となった(表3を参照)。つまり、複数のねらいがあると判断した教材が12あると判断した(巻末資料2を参照)。

表3 総教材数とデジタル教科書及びその他のICTの活用回数(中1)

	知識・技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉	情報	言語文化	話す・聞く	書く	読む
教材総数	17	8	7	6	12	14
デジタル教科書活用	3	0	2	1	0	8
他のICT活用	0	1	0	4	3	3
デジタルICT併用	0	0	0	1	0	3
黒板・ワーク等	14	7	5	2	9	3

一方、中学2年生の国語科の教科書で1年間に扱う教材を同様の観点で整理すると(巻末資料3を参照)、1年生と同様に単元教材は52、複数のねらいがあると判断した12の教材を合わせ、総教材数が64となった。項目別では、表4にまとめた通りである。

表4 総教材数とデジタル教科書及びその他のICTの活用回数(中2)

	知識・技能			思考力・判断力・表現力等		
	言葉	情報	言語文化	話す・聞く	書く	読む
教材総数	17	6	8	6	10	17
デジタル教科書活用	2	0	4	0	0	9
他のICT活用	1	1	0	2	6	5
デジタルICT併用	0	0	0	0	0	2
黒板・ワーク等	14	5	2	4	4	5

中学校で1年間デジタル教科書を使ってきた共著者の感想のうち、デジタル教科書を含めたICT活用を考える上での重要な指摘を下記に示しておきたい。

「デジタルを用いて授業を作る場合、『なんとなく』では使いにくい面があるように思います。授業のねらいや付けたい力を授業者が持っておかないと、どのコンテンツを選択して、どのタイミングで用いるかの判断ができません。デジタルは時短と一般的に考えられていますが、私にとっては意外と時間のかかるものでした。デジタルを利用した課題配付や回収、評価においては、もちろん時間短縮です。しかし、授業でどう使うかを考えるには、単元全体の流れをしっかりと考えておく必要があります。実際、デジタルを用いる頻度が高くなるにつれて、単元のまとまりで授業を構成することを意識するようになりました。」

年間を通じてデジタル教科書の活用を続けてきた授業者による上記のコメントは、デジタル教科書の普及における重要な示唆を含むものであると考えられる。

まず、学習者用デジタル教科書の機能やコンテンツを用いて指導する場合、従来の教科書を用いるよりも、操作時間や情報量が増えるために、そのための学習時間の確保が必要となる。タブレットの出し入れや起動・ログイン・デジタル教科書の呼び出し、保管庫への片付け等に加えて、各種操作・描画機能の習得にも時間を要する。このため、従来の授業設計の中に、デジタル教科書を「追加する」という発想では、どうしても時間不足に陥ってしまい、学習効果が見込まれても、時間内に収まらないのであれば、その活用に懐疑的になってしまう。

そこで、上記授業者は、1時限（小学校 45 分間、中学校 50 分間）の単位で考えるのではなく、単元を見通して、デジタル教科書の効果的な場面・必要とする場面で集中的に導入したり、場合によっては単元の再構成をおこなってきた。特に、中学校では複数の学級で授業進度を合わせなければならないために、どの機能をどの程度使用するか、どのコンテンツに何分程度アクセスさせるのかといった目安・想定が重要となるためでもある。

これまで以上の学習効果を目指すためには、デジタル教科書の機能・コンテンツを把握すること以上に、教材研究のやり直し（授業のねらい、つけたい力の再考）、指導上の時間的な感覚を醸成することも大きなポイントとなることが分かった。年間を通したデジタル教科書の活用から得たこの知見は、今後のデジタル教科書の普及に向けての重要なポイントであり、ICT の操作習得を前面に打ち出すのではなく、普及の要は授業設計の見直しにあることが示唆されたといえよう。

ただ、今後研究が進むと考えられる「個別最適な学び」への適用を図る場合には、学習者用デジタル教科書の各種機能やコンテンツ・資料等を児童・生徒自身にも十分に把握させて、学習課題に応じて自分で必要な学習リソースを選択し、自主的に学習が進められるように、デジタル教科書での「学び方を学ぶ」といった機会も確保していく必要が有るだろう。

5. 総合考察

小・中学校と年間を通してデジタル教科書を活用した授業を参観して、今後国語科の指導において、有効な活用の仕方として定着していくであろうと思われるいくつかの視点について考察しておきたい。

5.1. 「知識及び技能」に属する事項

小学校における「知識・技能」の「言葉の特徴や使い方（表中の「言葉」項目）」におけるデジタル教科書の4回の活用は、主に漢字や熟語、文の組み立て指導における補助教材として用意された「ワーク」での活用であった。このうち、他の ICT 活用との1回の併用は、教科書の最初に置かれた音読教材である二つの詩の指導において、詩の内容を踏まえながらどのような読みの工夫をするかについて、「スタンプ」や「線」、「ふせん」機能を使いながらデジタル教科書に書き込んだ後、クラウド型授業支援アプリ（ここでは「ロイロノート」を使用）で共有した活用である。

中学校における「言葉」については、漢字や語彙、中学校における文法事項等、確認や反復を可能にする「ワーク」は、紙のワークシートに代わるものとして、継続的に使われていくものと思われる。

ただし、「繰り返しによる定着」という要素が強いた

め、デジタル教科書内にある「ワーク」の分量的な不足を、小・中とも共通して感じていた。逆にいえば、学習習慣がついた中学生であれば、ここでの分量が増えればさらなる活用が見込まれると考えられる。

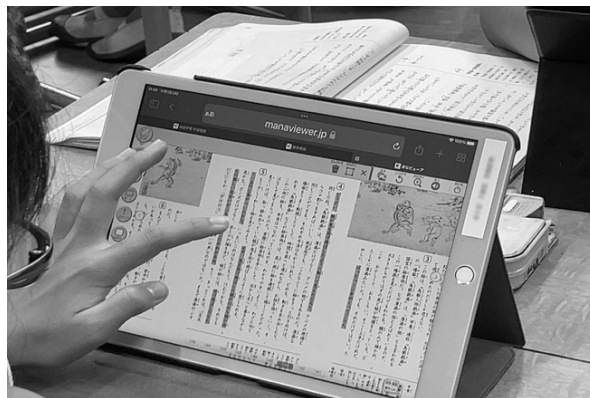


図1. 「スタンプ」や「線」機能の活用

また、小学校・中学校の共通事項として、「言語文化」に関する事項である古文や擬古文、漢文、漢詩といった教材は、比較的文章が短く、全文を一画面で提示できるため、大型画面で本文を提示しながら使用している場面が多く見られた。また、狂言についての音声での説明、琵琶法師の語り、漢詩の中国語読み、古典作品の他の章段の音読など、補助教材として即活用できる場面が多いことから、中学校学習指導要領の「古典の世界に親しむこと」、「古典に表れたものの見方や考え方」（我が国の言語文化 ア及びイ）のねらいを達成するツールとして活用する機会が多くあったといえる。

5.2. 「話すこと・聞くこと」に属する事項

授業では、デジタル教科書で読み上げられた音声原稿の要点をメモするなどは、小学校・中学校ともに実践されていた。しかし小学校では「話し合い」の動画視聴での1回の活用であったし、中学校でもデジタル教科書の活用は1回と少なかった。このことは、未だ「話すこと・聞くこと」についての指導が不十分であり、実践的な授業スタイルとして確立されてきていないところにむしろ課題があると考えられる。

「話すこと・聞くこと」については、デジタル教科書の機能が比較的有効に活用できる分野であり、「聞くこと」指導をするためのコンテンツとして、デジタル教科書の読み上げ機能は、中心的役割を果たしていくものと思われる。今後はこれを牽引する動画内容の工夫も望まれるところである。

本文の読み上げ機能のほかに、デジタル教科書には「話し合いの模範動画」を視聴することもできるが、これを手がかりに、話し合いのスキルを身に付けさせていくことは、国語科に限らず、協働的な学びを支える

重要な指導であり、今後、国語科の指導において力を入れて取り組んでいく必要のある内容であると思われる。

5.3. 「書くこと」に関する事項

「書くこと」指導については、1年間を通して小学校・中学校ともデジタル教科書を使う場面は多くなかった。その大きな要因は、「書くこと」において、その思考過程を支援する学習支援コンテンツが、デジタル教科書には少ないことがあげられる。

5.4. 「読むこと」に関する事項

一方で、「読むこと」指導については、多くの単元教材において、単元計画全体の中のどこかの場面でデジタル教科書を使うといったケースが見られた。特に、小学校・中学校共に、「読むこと」指導と「マイ黒板」との親和性は高いと思われるので、説明的文章、文学的文章の特性に合わせた使い方をしていくことが求められるだろう。また、例えば、光村図書の中学校の教科書の中にも「シジュウカラ」や「セミ」といった自然を扱った説明的文章が掲載されているが、こうした単元教材では、デジタル教科書の中に、筆者が直接語る動画（研究者となるきっかけやセミを研究対象とした理由など）やさまざまな種類のセミの鳴き声の動画などを用意しており、こうした動画は、デジタル教科書の得意分野として、有効な活用場面の1つになるであろうと思われる。

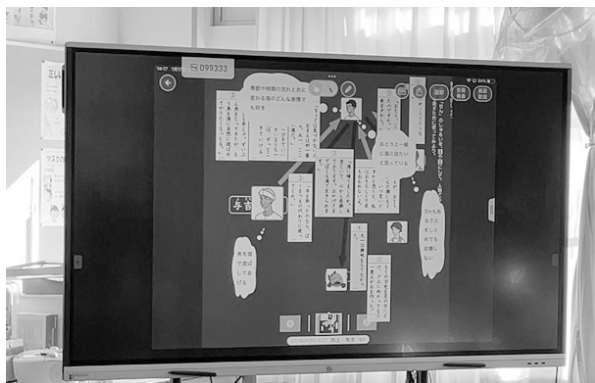


図2. 「マイ黒板機能」の活用

6. おわりに

学習者用デジタル教科書の導入に関して、年間を通じて、その活用履歴をつけることで、概ねその傾向を示すことができたことは、本研究の成果であるといえよう。また、小学校と中学校を並行して参観することで、双方の相違点・共通点を見出すことができた。この点では、今後とも校種を超えて有効活用場面の共有ができることを示せたともいえる。

一方、今後のデジタル教科書の有効活用という点での課題も見えてきた。1つは、国語科において、デジタル教科書にパック化された学習支援コンテンツと従来型の黒板をはじめとしたノートや紙のワークシートが、どのような役割分担をしていくのかについての今後の在り方を、1年間という長期間に渡って検証してきた結果をもってしても、明確に示すことができなかったことである。これは、デジタル教科書そのものが未だに発展途上にあるため、内容的な充実を図る必要性もあるが、授業者のこれまでの授業スタイルへの適合性や中学校では定期考査に向けての時間的な拘束もあり、大きく発想を変えてのデジタル教科書の活用がしづらい点もあろう。しかしながら、今回の検証授業では、デジタル教科書の模範動画をもとにして、生徒自身で新たな動画を収録するなど、デジタル教科書があればその新たな取り組みも導入されている。こういった事例が、今後生徒らの国語科への認識についてどう変化をもたらしていくのかといった点では、次年度以降の継続的な検証も必要となり、更に時間を要することとなるだろう。

注

- 1) 令和3年度から国語科では学習者用デジタル教科書を活用。生徒は生徒用アカウントで「まなビューア」にログインし、自分の学年のデジタル教科書を参照できる。生徒が作成したデータは、Classroom内の課題提出機能を利用して提出させることにしており、提出された成果物等を評価するとともに、再度教室で共有することにより、確認作業や振り返りが行えるようになっている。

参考資料・引用資料

- 文部科学省による『学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン』（2021年3月改訂）
- 学習者用デジタル教科書の機能に対する教員の期待感の構造－活用研修のデザインに向けて－（2021）、森山潤・和田直久・殿岡貴子・徳島祐彌・阪上弘彬・永田智子、日本教育メディア学会、教育メディア研究、28巻1号 p. 33-44
- 光村図書（2022）、国語教科書中学校1年指導事項配列表 https://assets.mitsumura-tosho.co.jp/1216/7537/5000/2021k_nenkei1_01_new.pdf（参照日 2023.5.24）
- 光村図書（2022）、国語教科書中学校2年指導事項配列表 https://assets.mitsumura-tosho.co.jp/7616/7537/5500/2021k_nenkei2_01_new.pdf（参照日 2023.5.2）

資料1 小学校6年生国語科における年間のICT・デジタル教科書使用履歴

月	教材名	デジタル教科書(ICT)活用法(※は従来の授業)
4	つないで、つないで、一つのお話	※黒板のみ。クラス全員でお話を作る活動を行った。
	春の河／小景異情 続けてみよう	「音読スタンプ」や「せん」「ふせん」機能を活用し、どのように詩を読むとよいかを考え、ロイロノートで共有した。内容を捉え読み方の工夫をするための足がかりとなり、また同時にデジタル教科書の使い方のチュートリアルにもなった。
	帰り道	・物語の「伏線」となる部分と、対応する部分(回収される部分)にスタンプを押す活動を行った。何気ない描写に意味があることを児童は感じ、山場を捉えるおおきなきっかけとなった。 律と周也のそれぞれの視点を、マイ黒板機能を活用してまとめた。まとめたものはロイロノートで共有し、修正をする機会も設けた。引用に時間が掛からないためとりかかりのハードルが低かったが、長文を引用する児童が多く、要約するためのしなげを備けるべきだった。
	地域の施設を活用しよう	※修学旅行にて見学した施設をふりかえった。黒板、電子黒板のみ。
	漢字の形と音・意味	練習問題としてデジタル教科書内のワークを活用した。手軽に活用できたものの、物足りない感触であった。
	春のいぶき	※二十四節気を確認した後、俳句作りを行った。
5	聞いて、考えを深めよう	ウェブサイト、ロイロノート、スライド作成アプリ等を使って、ディベートを行った。テーマは、「インスタ案と食品の利用を積極的に進めていくべきか。」インターネットを活用することで、多様な情報の中から必要とする資料を選択するおおきなきっかけとなった。一方、引用の仕方、信頼できる情報かどうかなどの指導が必要であった。
	漢字の広場①	※掲載されている漢字を使ってニュース記事を作り、発表した。黒板、ノートのみ。
	笑うから楽しい 時計の時間と心の時間 [情報] 主張と事例	「筆者の考え」「事実」などのスタンプを活用したり、2つの話題について色を分けて線を引いたりすることで、文章の構成を捉える手がかりにした。
6	話し言葉と書き言葉	※口語と文語が混ざったダウト作文を読み、書き言葉と話し言葉の違いや使い分けなどについて話し合った。黒板、ノート活用。ダウト作文は電子黒板に提示した。
	たのしみは	※教科書の短歌を確認した後、短歌作りを行った。黒板のみ。
	文の組み立て	練習問題としてデジタル教科書内のワークを活用した。印刷したものでも十分であると感じた。
	天地の文	音読の区切りを行い、「調」を意識するきっかけ作りとした。書いたり消したりする作業には、デジタル教科書が効果的であると感じた。
7	[情報]情報と情報をつなげて伝えるとき	※総合的な学習での発表に向けた報告書を互いに確認しあい、文の関係について確認した。黒板、報告書のみ。
	私たちにできること	文章作成アプリを活用し、SDGsについての提案文を作成した。ICTを活用することで、提案分の中身に焦点を当てて指導することが出来た。
	夏のさかり	※二十四節気を確認した後、俳句作りを行った。
9	私と本 森へ	視覚、聴覚などに分けてスタンプを押し、文章の特徴を捉えるきっかけとした。画像編集アプリを活用し、デジタル教科書の画像を使って帯作りを行った。「お絵かき」などの不要な時間を省くことができた。
	せんねん まんねん	「せん」「ふせん」「ペン」機能を活用し、詩の中の「表現の工夫」(くりかえし等)を視覚化し、ロイロノートで共有した。
	いちばん大事なものは	※ふだんの話し合い活動をふりかえった後、「いちばん大事なものは」というお題で話し合い活動を行い、気づきをワークシートにまとめた。
	利用案内を読もう	ウェブサイトを活用し、パンフレットとの比較を行った。ワークシート活用
	熟語の成り立ち	練習問題としてデジタル教科書内のワークを活用した。活用しやすかった。
10	漢字の広場②	※掲載されている漢字を使ってニュース記事を作り、発表した。黒板、ノートのみ。
	やまなし [資料] イーハトーヴの夢	※実験的にICTを活用せず授業を行った。イーハトーヴの夢の情報整理、五月と十二月の比較など、活用できそうな場面があると感じた。構成表の作成などにおいては、書き写すことに億劫になっていると感じる児童もいた。
	言葉の変化	導入としてデジタル教科書内のワークを活用した。活用しやすく、本時のめあてにつながる活動となった。
	秋深し	※二十四節気を確認した後、俳句作りを行った。
11	みんなで楽しく過ごすために [コラム] 伝えにくいことを伝える	デジタル教科書内の動画を参考に、話し合い活動を行った。自分たちの話し合いと比較するような活動を行えば良かった。
	漢字の広場③	※掲載されている漢字を使ってニュース記事を作り、発表した。黒板、ノートのみ。
	『鳥獣戯画』を読む [情報] 調べた情報の使い方 日本文化を発信しよう	筆者の書き方の特徴とと思う部分(秘伝技)に線を引く活動を行い、文章構成や方言の工夫を捉えるきっかけとした。間違っても消すことが出来るため、積極的に活動に取り組んでいる姿が見られた。文章作成アプリを活用し、「『鳥獣戯画』を読む」の構成や表現の工夫を生かした「『百鬼夜行絵巻』を読む」という文章を作成した。ICTを活用することで、提案分の中身に焦点を当てて指導することが出来た。また、図を活用した表現の工夫も簡単に実現することができた。
	古典芸能の世界——演じて伝える	学級全体で「狂言」「能」「歌舞伎」「人形浄瑠璃」の4つの古典芸能を確認した後、グループに分かれてインターネット等を使い調べたことをロイロノートにまとめ、発表した。
	カンジエ博士の漢字学習の秘伝	ロイロノートで問題作りを行った。モザイクなど、表現豊かな問題作りを行うことが出来た。
	漢字の広場④	※掲載されている漢字を使ってニュース記事を作り、発表した。黒板、ノートのみ。
12	狂言 柿山伏 「柿山伏」について	デジタル教科書内の動画やウェブサイト上の動画を参考に、柿山伏を演じた。狂言ならではの表現を感じる事が出来た。
	大切にしたい言葉	『海の命』の学習を見越し、これまでに会った言葉と関係図にまとめ、その関係図をもとに作文構成表をロイロノートで作成し、卒業文集に掲載する作文を書いた。普段なかなか書くことのできない児童も、意欲的に書くことができた。
	漢字の広場⑤	※掲載されている漢字を使ってニュース記事を作り、発表した。黒板、ノートのみ。
	冬のおとずれ	※二十四節気を確認した後、俳句作りを行った。
1	詩を朗読してしょうかいしよう	※詩集の中から気に入った詩を、紹介し合った。黒板、ノートのみ。
	仮名の由来	※万葉仮名を確認し、平仮名・片仮名の由来をクイズ形式で知ったり、万葉仮名クイズを出し合ったりした。黒板・ノートのみ。
	メディアと人間社会 大切な人と深くつながるために [資料] プログラミングで未来を創る	これまでに活用してきたデジタル教科書の機能、ロイロノートなどを活用し、2つの文章を比較し、筆者の考えをもとにディベートを行った。書き方、主張の違いなどが明確に視覚化された。
漢字を正しく使えるように [コラム] 覚えておきたい言葉	導入としてデジタル教科書内のワークを活用した。活用しやすく、本時のめあてにつながる活動となった。	

2	人を引きつける表現	※教科書で紹介されている表現の工夫を確認した後、お気に入りの歌詞の表現の工夫を調べ発表があった。ワークシート活用。
	思い出を言葉に	※教科書を確認した後、卒業文集の下書きを行わせた。作文用紙のみ。
	今、私は、ほくは	2学期に実施。総合的な学習での調べ学習のまとめ、全校児童への提案を、プレゼンテーションアプリ「Keynote」を活用して作成し、全教集会で発表した。
3	漢字の広場⑥	※掲載されている漢字を使ってニュース記事を作り、発表した。黒板、ノートのみ。
	海の命	主人公が登場人物から受けた影響に線を引き、それをもとに人物関係図を作成した。人物関係図を作成する中で、物語全体の概要を視覚的にまとめ、人物の「生き方」に焦点を当てた話し合い活動を行うことが出来た。
	中学校へつなげよう 生きる 今、あなたに考えてほしいこと	指導者用デジタル教科書を用いて各連の共通点を確認した後、短冊を用いてオリジナルの『生きる』の詩を学級全体で作った。黒板のみ。

※はデジタル教科書等の ICT を児童は活用していないが、指導者はデジタル教科書を電子黒板に接続し、つねに提示している状況にある。

資料2 中学校1年国語科 授業記録（令和4年度）

	教材名	知識・技能	使用したもの	話すこと 聞くこと	使用したもの	書くこと	使用したもの	読むこと	使用したもの	主な言語活動	デジタル教科書の活用	
	朝のリーダー	(1) ア	音読							詩を音読して味わい、紹介文を書き交流する。		
言葉に出会うために	野原はうたう	(1) ア	ワークシート							詩の内容に合った音読の工夫を考え、音読会を開く。		
	声を届ける/書き留める/ 言葉を調べる/載けてみよう シンシユン	(1) ア (2) イ (3) オ	教科書			(1) ア	ノート			これからの国語学習のルールを確認する。		
1字びをひらく	[聞く] 情報を的確に聞き取る	(2) イ	ワークシート					(1) イ	Forms デジタル教科書 (ワーク・資料)	物語の山場を捉え、二人の関係の変化について整理する。	作品の大意を確認する。 作者からのメッセージを視聴する。	
	季節のしおり 春	(2) イ	ワークシート							効果的なメモの取り方について実践を通して考える。		
	情報整理のレッスン 比較・分類	(2) イ	ワークシート							身近なものを比較し、お互いの比較の観点について話し合う。		
	情報を整理して書こう わかりやすく説明する	(2) イ	ワークシート			(1) ア	ワークシート			おすすめ場所について紹介文を書く。		
	漢字1 漢字の組み立てと部首 漢字に親しもう1	(1) イ (1) イ	教科書・ノート									
2 新しい視点で	アイコンは大きな世界	(2) イ	デジタル教科書 (ワーク)					(1) ア	デジタル教科書 (ワーク) ワークシート	段落の役割について考える。	文章の構成を図示して整理する。	
	ちょっと立ち止まって	(2) ア	デジタル教科書 (ワーク)					(1) ア	ワークシート	文章の構成を捉えながら、読解地図を作成する。	文章の構成を図示して整理する。	
	思考のレッスン1 意見と根拠	(2) ア	ワークシート							1分間スピーチで自分の好きな物を紹介する。		
	語の構成を工夫しよう 好きなことをスピーチで紹介する	(1) ア	発表	(1) ア (1) イ	ワークシート							
	漢字に親しもう2 文法への扉1 言葉のまとまりを考えよう 一文法1 言葉の単位 (P238-241)	(1) イ (1) エ	教科書・ノート デジタル教科書 (ワーク)									
情報社会を生きる	情報を集めよう/情報を組み取ろう/ 情報を引用しよう	(2) イ	教科書		(1) ア	教科書	(1) ウ	教科書		複数のグラフを関連付けて読み解く練習をする。		
	詩の世界 [書く] 詩を作ろう	(1) ウ (1) オ	模造紙			(1) ウ	ワークシート	(1) エ	模造紙	・題で選んだ詩について、模造紙に整理して説明する。 ・詩を作り、鑑賞する。 ・文章構成、各段落の役割を捉える。	文章の構成を図示して整理する。	
3 言葉に立ち止まる	比較で広がる言葉の世界	(1) オ	ワークシート					(1) ア	デジタル教科書 (ワーク)	図を比較を用いて説明する。		
	言葉1 指示する語句と接続する語句 言葉を集めよう もつと「伝わる」表現を工夫して	(1) エ (1) ウ	教科書・ノート 教科書							おすすめのものの紹介文を書く。		
読書生活を豊かに	読書を楽しむ 本の中の中学生 あと少し、もう少し/西の魔女が死んだ/ ブラインドの向こうに見える光	(3) オ (3) オ (3) オ	教科書 教科書 教科書					(1) オ	教科書	読書感想文を書く。		
	読書案内 本の世界を広げよう 読書コラム 本との出会い	(3) オ (3) オ	教科書 教科書									
	季節のしおり 夏	(3) オ	教科書									
4 心の動き	大人になれなかったあたちに……	(3) オ	ワークシート					(1) イ	デジタル教科書 (資料) Jamboard ドキュメント	題名の意味について、語で話し合ったことをまとめて発表する。	戦時中の様子などを資料で確認する。	
	星の花が降るころに	(1) オ	ワークシート					(1) ウ	ワークシート ドキュメント Forms デジタル教科書 (資料)	読解地図を作成する。 ・読解を書き、評価し合う。	作者からのメッセージを視聴する。	
	聞き上手になろう 質問で話を引き出す 項目を立てて書こう 案内文を書く	(1) ア (2) イ (2) イ	対話 ワークシート ワークシート	(1) エ	ドキュメント		(1) ア	ワークシート			・チャット形式で、質問のしかたを工夫し、話を引き出す練習をする。 行事の案内文を作成する。	
	[推版] 読み手の立場に立つ 言葉2 方言と共通語	(1) ウ (1) ウ	教科書 音声データ ワークシート				(1) エ	教科書			読み手の立場に立ち、案内文を推敲する。 方言と共通語の良さについて考える。	
	漢字2 漢字の音訓	(1) イ	教科書									
5 筋道を立てて	「言葉」をもつ馬、ジユウカウ	(2) ア	デジタル教科書 (マイ黒板)					(1) エ	デジタル教科書 (個人ワーク) (マイ黒板) (資料)	読解地図を作成し、構成や展開の効果について考える。	マイ黒板に、本文や資料の引用をしながら、視覚的にわかりやすくまとめ、文意の特徴を捉える。	
	思考のレッスン2 原因と結果 根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く	(2) ア (2) イ	教科書 Forms ドキュメント			(1) イ (1) ウ	Forms ドキュメント			アンケート結果を元に、図表を引用してレポートを作成する。		
	漢字に親しもう3 [話し合い] 話し合いの展開を捉える	(1) イ (2) ア	教科書 教科書	(1) オ	教科書						話し合いの展開について考える。	
	話題や展開を捉えて話し合う グループ・ディスカッションをする	(2) ア	デジタル教科書 (動画) ワークシート	(1) オ	デジタル教科書 (動画) ワークシート						話し合いの流れを確認する。	
	音読を楽しもう 大阿蘇	(1) ウ	教科書					(1) エ	教科書	工夫して詩を朗読する。		
6 いにしへの心に ふれる	季節のしおり 秋	(3) ア	デジタル教科書 (本文提示)							古文の言葉の響きに親しむ。	黒板に本文を提示する。	
	古典の世界	(3) イ	教科書							3年間の古典学習の見直しを持つ。		
	産葉の土の根—「竹取物語」から	(3) ア	デジタル教科書 (本文提示)			(1) イ	ワークシート			本文から登場人物の心情を読み取る。	黒板に本文を提示する。	
7 価値を見いだす	今に生きる言葉 [書く] 故事成語を使って体験文を書こう	(3) ア	ワークシート 故事成語カルタ			(1) イ	ワークシート 故事成語カルタ	(1) オ	ワークシート 故事成語カルタ	故事成語のエピソードと語句の意味の関係を理解し、故事成語を4コマで紹介する。 ・目的に応じて、筆者の考えを要約する。 ・筆者の考えに対する自分の考えを持つ。		
	「不従」の価値を見つめ直す [書く] 根拠を明確にして、意見をまとめよう	(2) ア (2) イ	ワークシート			(1) ウ	ワークシート	(1) ウ	ワークシート		作品の書評を書き、班で推敲する。	
	助言を自分の文章に生かそう 作品の書評を書く	(3) オ	教科書			(1) オ	ワークシート					
8 自分を見つける	漢字に親しもう4 文法への扉2 言葉の関係を考えよう 一文法2 文の組み立て (P242-246)	(1) イ (1) エ	教科書 デジタル教科書 (ワーク)								練習問題に各自で取り組む。	
	考える人になろう 君たちはどう生きるか/たのしい雨の 読書案内 本の世界を広げよう	(3) オ (3) オ	教科書 教科書					(1) オ	教科書			
	少年の日の思い出 [書く] 別の人物の視点から文章を書き換えよう	(1) ウ	ワークシート			(1) イ	ドキュメント	(1) エ (1) オ	デジタル教科書 (動画) スライド	読みの深さをスライドに整理しながら、個人で読解プレゼン資料を作成する。	伏線部分や、心情が読み取れる部分に線を引く。	
	漢字に親しもう5 文法への扉3 単語の性質を見つけてよう 一文法3 単語の種類 (P247-250)	(1) イ (1) エ	教科書 デジタル教科書 (ワーク)								練習問題に各自で取り組む。	
	随筆二編 構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く	(1) ウ (1) ウ	ワークシート 教科書			(1) イ (1) ウ	ワークシート			筆者の考えや思いを読み取る。 自分の体験を基に随筆を書き、評価し合う。		
振り返り	言葉3 さまざまな表現技法 漢字3 漢字の成り立ち 漢字に親しもう6 一年間の学びを振り返ろう 要点をワザにまとめ、発表する	(1) オ (1) イ (1) イ (1) ア (2) イ	教科書 教科書 教科書 発表			(1) ウ	スライド	(1) ア	スライド			
	さくらの はなびら	(1) オ	教科書					(1) オ	ワークシート	1年間で印象に残った学習について、プレゼン資料を作成し、班で発表する。		
	学習を振り返ろう	(2) イ (3) ウ	教科書 教科書	(1) ウ	教科書	(1) ウ	教科書	(1) オ	教科書	作者の思いを詩の表現の工夫から読み取る。 付けたい力と付いた力について整理する。		

資料3 中学校2年国語科 授業記録 (令和4年度)

	教材名	知識・技能	使用したもの	話すこと 聞くこと	使用したもの	書くこと	使用したもの	読むこと	使用したもの	主な言語活動	デジタル教科書の活用		
1 広がる学びへ	見えないだけ	(1) エ	ワークシート							作者のメッセージをまとめる。			
	アリスプラネット	(1) エ	ワークシート					(1) ア	・ドキュメント ・デジタル教科書 (マイ黒板)	心情の変化を読み取り、登場人物の役割について考える。	・主人公の心情の変化を本文を引用しながら、整理する。		
	「聞く」問いを立てながら聞く	(2) ア	・音声データ ・ワークシート	(1) ア (1) エ	・音声データ ・ワークシート					話を聞き、根拠が適切かどうか検討する。			
	季節のしおり 春												
	枕草子 「書く」自分演「枕草子」を書こう	(3) イ	・デジタル教科書 (本文提示) (ワーク) ・ワークシート			(1) ア	ドキュメント	(1) オ	・デジタル教科書 (本文提示) (ワーク) ・ワークシート	枕草子の作品について知り、季節感を表す文章を書く。	・黒板に提示し、音読や暗唱を行う。		
	情報整理のレッスン 思考の視覚化 多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る	(2) イ (2) イ	ドキュメント			(1) ア	ドキュメント			職業ガイドブックを作成する。			
2 多様な視点から	漢字1 熟語の構成	(1) ウ	教科書										
	漢字に親しよう1	(1) ウ	教科書										
	クマザミ増加の原因を探る	(1) オ	ワークシート					(1) ア (1) ウ	デジタル教科書 (マイ黒板)	文章の構成や展開、図表の関係について考え、読解地図を作成する。	・文章構成や展開について、読み取ったことを図示し、整理する。		
	思考のレッスン1 具体と抽象 魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする	(2) ア (1) ア	教科書 発表	(1) イ (1) ウ	スライド					テーマに合った構成や資料を工夫し、プレゼンテーションする。			
	漢字に親しよう2	(1) ウ	教科書										
	文法への扉1 単語をどう分ける？ 一文法1 自立語 (P234-237)	(1) オ	デジタル教科書 (ワーク)									・練習問題に各自で取り組む。	
情報社会を生きて	メディアを比べよう1 メディアの特徴を生かして 情報を集めよう1 「自分で考える時間」をもとう	(2) イ	・教科書 ・ワークシート			(1) ア	・教科書 ・ワークシート	(1) イ (1) エ	・教科書 ・ワークシート	メディアの比較や新聞記事の比較から、情報収集の方法について考える。			
	短歌に親しよう 「書く」短歌を作ろう	(1) エ	ワークシート			(1) ウ	ワークシート	(1) エ (1) オ	ワークシート	短歌の鑑賞文を基に、鑑賞のポイントをおさえる。			
	短歌を味わう	(1) エ	ワークシート					(1) エ	スライド	短歌の紹介スライドを作成する。			
	言葉の力	(2) エ	ワークシート					(1) オ	ワークシート	文章を要約し、筆者の考えに対する自分の考えをまとめる。			
3 言葉と向き合う	言葉1 類義語・対義語・多義語	(1) エ	教科書							類義語・対義語を比べ、語感を広げる。			
	言葉を比べよう もつと「伝わる」表現を日ざして	(1) エ	ワークシート										
	言葉を楽しむ 類似作品を読み比べよう 星の王子さま	(3) エ	教科書					(1) エ (1) オ	教科書				
	読書コラム 「わからない」は人生の宝物 読書案内 本の世界を広げよう 季節のしおり 夏	(3) エ	教科書										
	松土産	(1) エ	ワークシート					(1) イ	・スプレッドシート ・デジタル教科書 (マイ黒板) ・ワークシート	作品の構成を整理し、登場人物の行動の意味について考える。	登場人物の行動を引用し、人柄や心情について班でまとめて発表する。		
	字のない漢書 聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す 表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く 「推論」表現の効果を考える 言葉2 敬語 漢字2 同じ調・同じ音をもつ漢字 漢字に親しよう3 モアイは語る―地球の未来	(3) エ (1) ア (1) カ (1) カ (1) カ (1) ウ (1) エ (1) ウ	ワークシート インタビュー 教科書 教科書 教科書 教科書 教科書 教科書	(1) エ	ワークシート	(1) ウ	お礼状	(1) エ	教科書	前半と後半の表現の仕方の違いについて考える。 班でインタビューを行い、的確な質問について考える。 場面に合わせた敬語を使う練習をする。			
4 人間のきずな	漢字に親しよう4 モアイは語る―地球の未来	(2) ア	ワークシート					(1) エ (1) オ	・デジタル教科書 (線引き) ・スライド	2つの文章を比較させ、各班にどのような視点で比較したかまとめさせる。	「問い」と「答え」の関係性を色分けして繰り返す。		
	思考のレッスン2 根拠の吟味 根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く 漢字に親しよう4 「討論」異なる立場から考える	(2) ア (2) ア (1) ウ (2) ア	教科書 教科書 教科書 教科書			(1) ウ	ワークシート			社会生活から課題を探し、自分の意見をまとめる。 二つの異なる立場から考える。			
	立場を尊重して話し合おう 討論で多角的に検討する 音読を楽しもう 月夜の浜辺 季節のしおり 秋	(2) ア (1) ア (1) エ	教科書 教科書 教科書	(1) ア (1) オ	討論			(1) エ	教科書	班でテーマを決め、討論を行う。 詩を朗読し、情景や心情を読み取る。			
	源氏と平家 音読を楽しもう 平家物語 扇の節―「平家物語」から	(3) イ (3) ア (3) イ	教科書 音声データ デジタル教科書 (本文提示) (資料) ・ワークシート					(1) イ	・デジタル教科書 (本文提示) (資料) ・ワークシート	平家物語の概要を理解し、冒頭部分を増殖する。 当時の武士たちのもの見方や考え方について、自分の考えをもつ。	・古文の読解に必要な資料を提示する。		
	仁和寺にある法師―「枕草子」から 「書く」人物の特徴を捉えて論じよう	(3) ア (3) イ	デジタル教科書 (本文提示) (資料) ・ワークシート			(1) イ	ドキュメント	(1) オ	・デジタル教科書 (本文提示) (資料) ・ワークシート	登場人物の行動に注目し、人物の特徴について自分の考えをまとめる。	・古文の読解に必要な資料を提示する。		
	漢詩の風景	(3) ア	デジタル教科書 (本文提示) (資料) ・ワークシート					(1) エ	・デジタル教科書 (本文提示) (資料) ・ワークシート	漢詩に歌われている情景を4コマで表し、表現や内容について考える。	・古文の読解に必要な資料を提示する。		
5 論理を捉えて	君は「最後の晚餐」を知っているか 「最後の晚餐」の新しさ 魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く 漢字に親しよう5 文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。 一文法2 用言の活用 (P238-243)	(2) ア (2) イ (1) エ (1) ウ	ワークシート スライド ワークシート スライド 教科書			(1) ウ (1) オ	ドキュメント			二つの文章を比較し、気付いたことを班でプレゼンする。 作品の鑑賞文を書く。			
	研究の現場にようこそ 日本に野生のゾウやサイがいた頃 クマの糸でバイオリン 読書案内 本の世界を広げよう 季節のしおり 冬	(3) エ (3) エ	教科書 教科書					(1) オ	教科書				
	6 いにしへの心を訪ねる	忘れメロス 「書く」作品の魅力をもとめ、語り合おう 漢字に親しよう6 文法への扉3 一字遣いで大違い 一文法3 付随語 (P244-260) 構成や展開を工夫して書こう 「ある日の自分」の物語を書く 言葉3 話し言葉と書き言葉 漢字3 送り仮名 国語の学びを振り返ろう テーマを決めて話し合い、壁新聞を作る	(1) エ (1) ウ (1) オ (1) オ (1) イ (1) ウ (1) オ (2) イ	デジタル教科書 (マイ黒板) 教科書 デジタル教科書 (ワーク) 教科書 教科書 教科書 ドキュメント			(1) ウ (1) オ	ドキュメント	(1) イ (1) オ	デジタル教科書 (マイ黒板)	人物どうしの関係を読み取り、作品の魅力について文章にまとめる。	人物像と、人物どうしとの関係をマイ黒板でまとめる。	
		学習を振り返ろう	(1) ア (1) カ (2) ア	教科書	(1) イ (1) エ	教科書	(1) ウ (1) エ	教科書	(1) オ (1) エ	教科書	作者のもの見方について考える。	付けた力と付いた力について整理する。	
		7 価値を語る	振り返り										